

一橋ローレビュー 創刊号

編集後記

一橋ローレビュー創刊号編集委員会

本ローレビューは、我々の先輩である、ロースクール第8期生の方々の発案により、企画されたものである。刊行に至るまで、このように長い時間がかかってしまったものの、今回、無事に創刊号を刊行することができた。刊行にあたり、様々な相談にのっていただいた橋本教授、阪口教授、ならびに査読に携わっていただいた先生方、Web掲載の作業をしていただいた渡沼さんには、心から感謝したい。また、ローレビュー刊行の先輩である名古屋大学ローレビューの編集関係者の方々からも、数多くの貴重なご意見をいただくことができた。この場を借りて感謝の意を述べたい。

刊行の趣旨にもあるように、このローレビューは、多くの一橋大学法科大学院関係者の起点となり、学問のみならず、法曹実務の発展に寄与することを目的としている。この創刊号においても、実務家のOBOGの方々のご協力により、判例評釈とコラムを掲載することができ、刊行の趣旨に合致した誌面とすることができたように思う。一方、論説については、法科大学院の授業である「法学研究基礎」を受講した学生の論説が中心となったものであるが、今後は、法科大学院全体の取り組みとして、このローレビューが位置づけられるよう、学生による判例評釈等、より幅広い投稿を募っていくことを課題としたい。

法科大学院の廃止や司法試験の受験科目の変更など、法科大学院を取り巻く状況は、決して明るいとは言えない形で移り変わっている。このような中であって本創刊号を刊行できたことは、重ね重ね、多くの方々のご協力によるものであるが、この先も、本ローレビューを継続し、何らかの形で法曹業界を盛り立てていく一助とするため、より一層の改善のための努力を行うとともに、本号をご覧いただいた方々においては、論説やコラムの投稿により、是非、本ローレビューにご参加いただきたい。